

第48回 東北農業経済学会・宮城大会のご案内

標記大会についてご案内申し上げます。第48回大会は宮城県において開催されることになりました。会員各位の積極的なご参加をお待ちしております。

=====

日 時 2012年8月23日(木) 編集委員会、学会賞選考委員会、役員会
8月24日(金) 大会シンポジウム、総会、懇親会
8月25日(土) 個別報告、ミニ・シンポジウム

=====

◆大会シンポジウムテーマ：東北農業・農村の復興 ―被災地・宮城から考える―

会 場 東北大学大学院農学研究科・農学部 講義棟 第1講義室

◆ミニシンポジウムテーマ：魅力的な参画者による新たな農漁村像の追及

会 場 東北大学大学院農学研究科・農学部 講義棟 第10講義室

=====

◆大会実行委員会

委員長：長谷部 正（東北大学） 事務局長：伊藤 房雄（東北大学）

=====

◆プログラム

第1日 2012年8月24日（金） 大会シンポジウム、総会

会場：東北大学大学院農学研究科・農学部 講義棟 第1講義室

- | | |
|-----------|------------|
| ○受付 | 9:00～9:15 |
| ○開会・会長挨拶 | 9:15～9:30 |
| ○来賓挨拶 | 9:30～9:45 |
| ○大会シンポジウム | 9:45～16:30 |

共通論題 東北農業・農村の復興 ―被災地・宮城から考える―

東日本大震災からまもなく一年半になる。この時間の経過をもってしても立ち直ることが容易でないほど東北農業は甚大な被害を受けた。耕地、農業機械、関連施設などハード面の復旧にもまだ時間がかかるが、集落など営農にかかわる様々な仕組みが安定的に機能するまでにはより一層の時間がかかる。この時間の経過を待っている余裕はあまりない。これまで数において中心的な担い手となってきた世代のリタイア時期が近づいているからである。他方、復興過程の中で様々な創意ある取組が現われている。それゆえ、今後の農業復興策を考えるにあたって、これまでの施策の延長にとどまらない領域に踏み込まなければならないが、これは被災地にとどまらない課題でもある。

東北農業経済学会は昨年11月に「3.11大震災から何を学ぶか―被災現場からの声―」と題するプレシンポジウムを開催し、具体的な被害実態の認識を共有することにつとめた。それをふまえて今大会のシンポジウムでは、主に宮城県における農業復興の施策と具体的な手法・取組に焦点をあわせる。第1報告では、宮城県における農業復興計画の内容と現時点での実施状況

や到達点について、宮城県農林水産部の担当者に説明していただく。第2報告では、農業復興計画の一つの柱となっている6次産業化の具体的な取組と復興との関わりについて、農業生産法人の代表に紹介していただく。第3報告では、震災後に組織された復興組合の実際の活動と抱えている問題点について自ら率直に語っていただく。第4報告では、以上の報告を受けて、研究者の視点から、農業・農村の復興に向けた今後の課題について提起していただく。

以上の報告に対して、東北農政局、JA宮城中央会、日本政策金融公庫それぞれの立場からコメントをいただくとともに、多数の参加者との議論を通じ、被災地の農業復旧・再生・復興を中心にしつつも、それにとどまらない今後の農業振興の方向性を見出すことを目的としたい。

座長 冬木 勝仁（東北大学）、森田 明（宮城大学）

座長解題

第1報告	宮城県震災復興計画と現状（仮）	佐藤 浩也（宮城県農業振興課）
第2報告	震災復興と6次産業化（仮）	針生 信夫（株式会社舞台ファーム）
第3報告	復旧・復興の現場から（仮）	安部 俊郎（有限会社アグリードなるせ）
第4報告	農業・農村の復興に向けた課題（仮）	工藤 昭彦（東北大学）
コメント		西岡 睦夫（東北農政局） 安斎 明修（JA宮城中央会） 義家 光久（日本政策金融公庫）

休憩

総合討論

- 学会総会 16:30～17:30
- 懇親会（会場：東北大学農学部 厚生施設生協食堂） 18:00～20:00

第2日 2012年8月25日（土） 個別報告、ミニ・シンポジウム

会場：東北大学大学院農学研究科・農学部 講義棟 各講義室

- 個別報告（会場：第5, 6, 7, 8講義室） 9:00～12:30
4会場、報告20分+質疑5分（報告者数により変更あり）

- ミニ・シンポジウム（会場：第10講義室） 13:30～16:30

近年、少子高齢化時代の到来により、日本国内の社会・経済は新たな画期を迎えている。とりわけ農漁村においてはこれまでの趨勢的な人口流出もあって、地域としての独自性を保ちながら、かつ、新たな活力を注入することに対する模索が続けられている。農漁村は、生産の場であるだけでなく、同時に生活の場でもある。農漁村における都市化の波に伴い、生産と生活の分離を強いられているとはいえ、生産、生活、さらに文化等々を統合して捉えることが、地域としての独自性の維持・発揮にとって求められる。また、地域の担い手たる若年層の減少傾向の中で、地域の様々な活動を持続させていくための担い手としては住民に限らず、外部の人（よそ者）も加えたさまざまな人々の参画が求められよう。他所からの参画者も加えた人々のネットワークの形成のあの方も課題として横たわっている。

このミニシンポでは、最初の女子栄養大学平口嘉典さんと東北大学安江紘幸さんによる趣旨説明の後に、（１）山形県村山市で若い女性だけで経営している「山形ガールズ農場」のメンバーの一人である那須野睦子さん、（２）2010年から釜石の漁業振興の一環としてのウギャル・プロジェクトのシンボルであるギャルのモデルLieさんや釜石市の地域づくりや漁業振興に取り組んでいるかまいし水産振興企業組合の三塚浩之さん、（３）デジタルテクノロジーの支援による伝統芸能継承の研究をしている東北大学大学院教育情報学研究部の渡部信一さんといった独自の活動を行っている方々に話題を提供して頂き、「生産」、「支援活動」、「伝統芸能の継承」という三つの視点を手がかりとして、今後の農漁村像について議論する。

座長 長谷部正（東北大学）

第1報告 趣旨説明 平口嘉典（女子栄養大学）・安江紘幸（東北大学）

第2報告 山形ガールズ農場の取り組みと地域との関わり（仮）

那須野睦子（農業生産法人国立ファーム株式会社山形ガールズ農場）

第3報告 ウギャル・プロジェクトと地域振興（仮）

Lie（ウギャル・プロジェクト）・三塚浩之（かまいし水産振興企業組合）

第4報告 デジタルの視点からみた伝統芸能の継承（仮） 渡部信一（東北大学）

コメント

山田恵・山本知史・桜井萌々子（東北大学農学部）

河野あけね（宮城県農業・園芸総合研究所）

総合討論

◆大会に関する各種申し込み等について

1. 大会参加の申し込み

会場や資料準備の都合上、8月6日(月)までに、別紙申込用紙をファックスにてお知らせ下さるか、もしくは必要事項を記載したEメールにてお申し込み下さい（申し込み先は次頁）。なお、大会参加は当日も受け付けます。

シンポジウム参加費（報告要旨集代）は2,000円、懇親会参加費は4,000円（院生・学生は2,000円）を予定しております。代金は当日、会場受付にて承ります。

2. 個別報告の申し込み

大会第2日(8月25日)9:00~12:30に、個別報告を行います。次の要領で募集致しますので、ふるってご応募下さるようお願い申し上げます。

なお、個別報告は、報告時間20分、質疑5分を予定しております（報告者数により変更あり）。個別報告プログラムを8月初旬に学会ホームページ（<http://aestohoku.jimdo.com/>）に掲載しますのでご確認ください。

(1) 申し込み方法

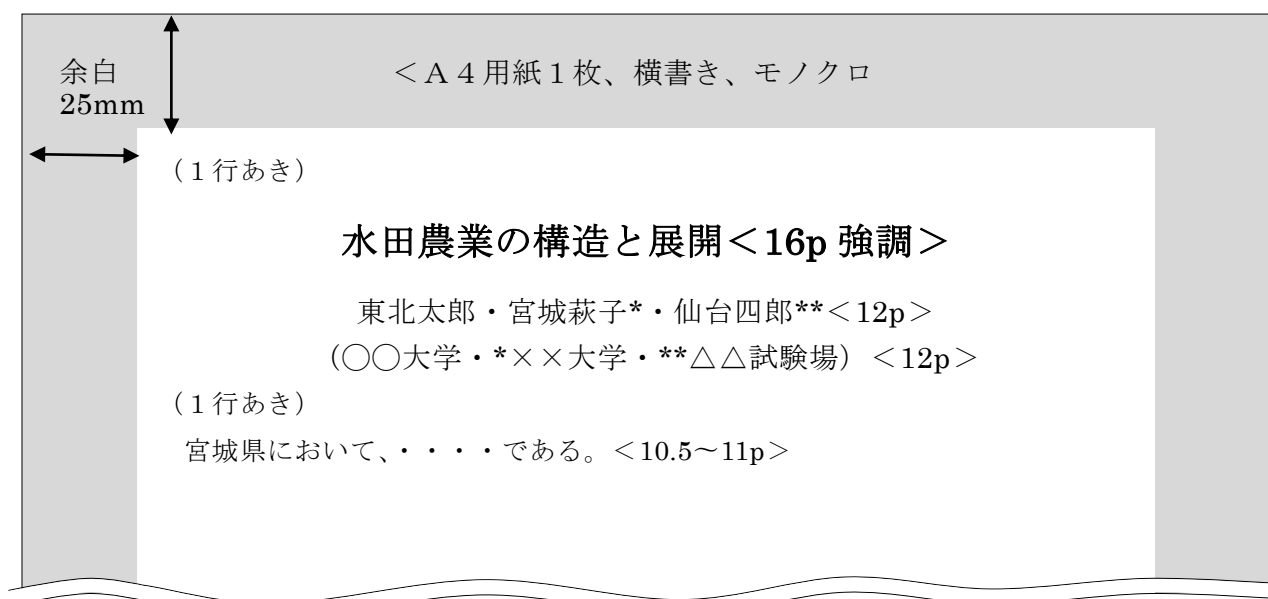
別紙申込用紙の「2. 個別報告申し込み」に必要事項をご記入の上、7月2日(月)までにファックス、または必要事項を記載したEメールにてお申し込み下さい（申し込み先は次頁）。

(2) 報告要旨の作成要領

個別報告を申し込まれた方は、下記要領で報告要旨を作成してください。要旨集は原則として提出原稿がそのまま原版となるオフセット印刷にて作成されますのでご注意ください。

- ① A4サイズ1枚、横書き、モノクロ、余白（マージン）は上下左右25mm
- ② フォントは和文MS明朝、英字century。10.5~11ポイント。42字×36行に設定
- ③ タイトル16ポイント、強調（ボールド）、氏名と所属機関 12ポイント

※イメージは次のようになります。ご参考にしてください。



(3) 報告要旨の提出

7月30日(月)までに、MSワード、一太郎、リッチテキストいずれかのファイルを、①CD-ROMで郵送、または②添付ファイルでEメール送付して下さい(申し込み先は次頁)。なお、提出の際には、氏名、所属、連絡先(住所、電話番号、Eメールアドレス)も併せてお知らせ下さい。

(4) その他

①パワーポイントでの報告を希望される方は、大会第1日(8月24日、個別報告前日)に大会受付付近に用意してあるパソコンの指定フォルダにファイルをコピーして下さい。

②配布資料は40部をご用意下さい(会場ではコピーできませんのでご注意ください)。

大会参加および個別報告の申し込み・お問い合わせ先

	締め切り	申し込み、お問い合わせ先
大会参加申し込み	8月6日(月)	〒981-8555 仙台市青葉区堤通雨宮町1-1 東北大学大学院農学研究科資源環境経済学講座 阿部玲子 宛 TEL&FAX 022-717-8664 Email ymachi@bios.tohoku.ac.jp
個別報告エントリー	7月2日(月)	
個別報告要旨提出	7月30日(月)	

◆宿泊先の手配は各自でお願いします。

現在、復興関連の業者やボランティア等が仙台駅周辺を拠点として滞在しているため、ビジネスホテル等の宿泊先の手配につきましては、余裕を持って行っていただきますようお願い致します。

◆会場へのアクセスマップ

東北大学大学院農学研究科・農学部 <http://www.agri.tohoku.ac.jp/j010000/id0007.html>

※会場には駐車場もありますが、台数が限られておりますので、公共交通機関のご利用をお勧め致します。



住所：仙台市青葉区堤通雨宮町1-1

・仙台市地下鉄

仙台駅から「泉中央駅」行乗車、「北四番丁駅」下車、徒歩10分

・仙台市営バス

仙台駅前バスプール乗り場

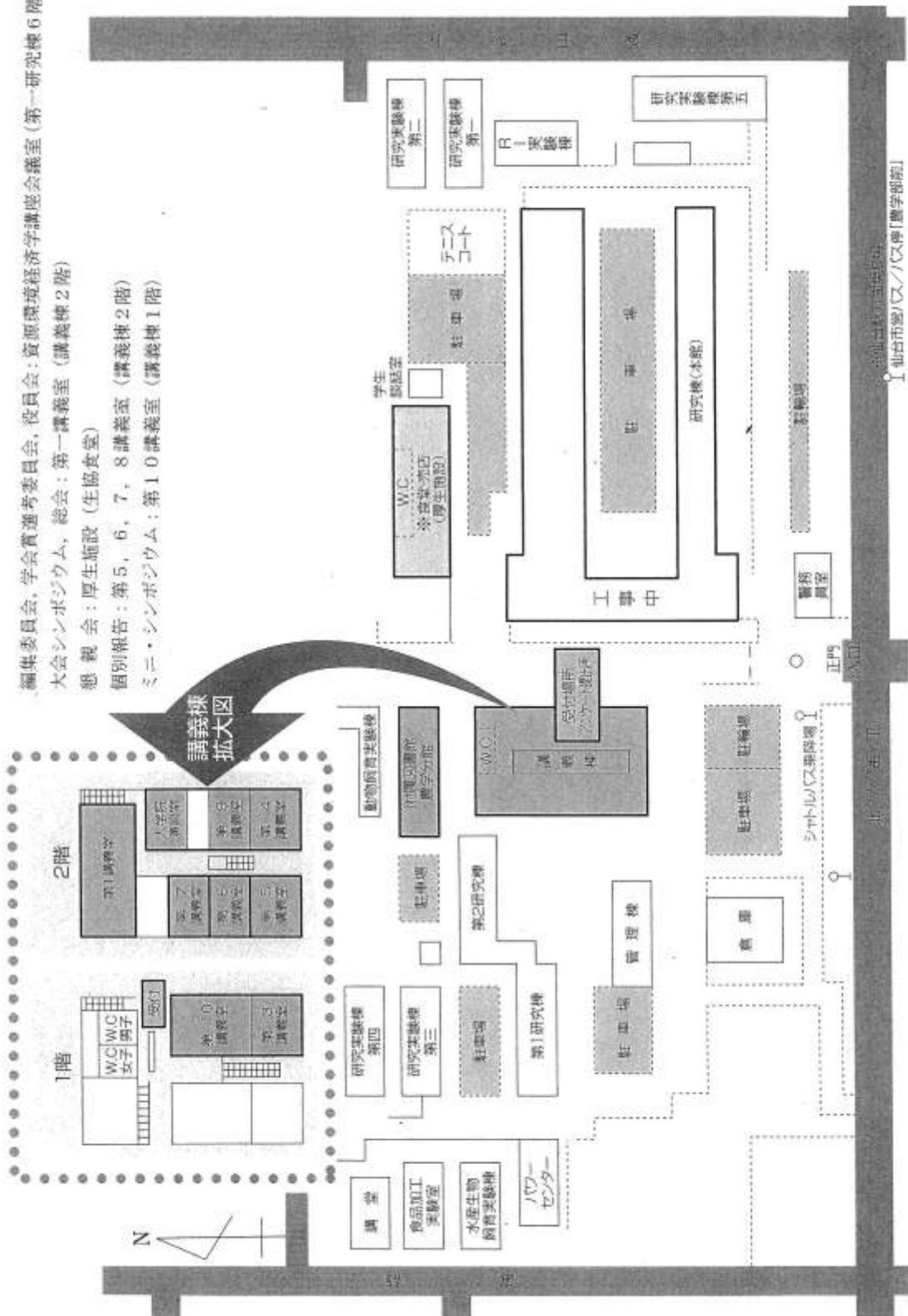
19番から「高松・安養寺(市役所前経由)」行

19番から「東仙台営業所(市役所前経由)」行

18番から「鶴ヶ谷(市役所前経由)」方面

のいずれかに乗車、「農学部前」下車、徒歩1分

編集委員会, 学会賞選考委員会, 役員会: 資源環境経済学講座会議室 (第一研究棟 6 階)
 大会シンポジウム, 総会: 第一講義室 (講義棟 2 階)
 懇親会: 厚生施設 (生協食堂)
 個別報告: 第 5, 6, 7, 8 講義室 (講義棟 2 階)
 ミニ・シンポジウム: 第 10 講義室 (講義棟 1 階)



送信先FAX番号 022-717-8664

東北大学 阿部玲子 へ

※Eメールで申し込む場合は、下記の事項をテキスト入力して送付してください。
(送付先 ymachi@bios.tohoku.ac.jp)

氏名： _____

所属： _____

電話： _____

Eメールアドレス： _____

1. 大会参加希望の有無 (いずれかに○印)

1) 大会シンポジウム・・・ 参加 ・ 不参加

2) 懇親会・・・・・・・・・・ 参加 ・ 不参加

3) 個別報告・・・・・・・・・・ 参加 (報告：する・しない) ・ 不参加
↳2.へ

4) ミニシンポジウム・・・ 参加 ・ 不参加

2. 個別報告申込み

1) 報告テーマ _____

2) パワーポイントの使用・・・ する ・ しない (いずれかに○印)